



最近のことです。高校生からSNSの「いいね」の数や成績を周り比べて落ち込む、そうかと言って比べないのも不安、という相談を受けました。言われてみれば、自分と周りを比べることで安心したり不安になったりすることは、誰も日常的に経験している様に思います。周りの人からどう思われようと気にしなければいいのだけれど、周りの人から認められないで生きるのは、あまりに不安でつらすぎる。「いいね」の数や成績が全てではないのに、それが自分の価値に直結しているように感じてしまう。そうしたことに一喜

一憂して社会を漂流している私たち。もしかすると、誰とも比べなくて良い、みんな一人ひとりが、まるごと認められるような居場所があれば、この不安や生きづらさはなくなるのかもしれませんが。

このシンポジウムでは、比較すること／比較されることがどうして苦悩を生むのか、また、こうした苦悩から抜け出すにはどんな方法があるのか、死にたい気持ちに向き合ってきた4名の登壇者を迎えてみんなで一緒にとことん考えます。

このシンポジウムは京都府自殺対策事業補助金を受けて開催します。

登壇者 (敬称略)



小林エリコ

(NPO法人コンボ職員・作家)

1977年生まれ。茨城県出身。短大を卒業後、エロ漫画雑誌の編集に携わるも自殺を回り退職。その後、精神障害者手帳を取得。現在も精神科に通院しながら、NPO法人で事務員として働く。ミニコミ「精神病新聞」を発行するほか、漫画家としても活動。自殺未遂の体験から再生までを振り返った著書「この地獄を生きるのだ」(イースト・プレス)が大きな反響を呼ぶ。エッセイ「わたしはなににも悪くない」(晶文社スクラップブック)にて連載中。



松本俊彦

(精神科医)

1993年佐賀医科大学医学部卒業後、国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科などを経て、2015年より現職。日本アルコール・アディクション医学会理事、日本精神科救急学会理事、日本青年期精神療学会理事。主著として、「自分を傷つけない～自傷から回復するためのヒント」(講談社、2015)、「もしも「死にたい」と言われたら～自殺リスクの評価と対応」(中央医学社、2015)など。



野呂靖

コーディネーター

(龍谷大学文学部准教授)

1979年生まれ。花園大学非常勤講師、浄土真宗本願寺派総合研究所研究員などを経て現職。博士(文学)。専門は仏教学。2010年、有志とともにNPO法人京都自死・自殺相談センターを立ち上げる。自死関係の論文に「自死対策における宗教者の役割」(『ケアとしての宗教』共著、明石書店)など。



竹本了悟

(NPO法人京都自死・自殺相談センター) Sotto代表

広島生まれ。浄土真宗本願寺派西照寺住職。防衛大学校卒業後、海上自衛隊に入隊するが僧侶となるため退官。龍谷大学大学院で真宗学を学ぶ。浄土真宗本願寺派総合研究所研究員を経て、現在、TERA Energy 株式会社 代表取締役。2010年に京都自死・自殺相談センター Sottoを10名の仲間と設立、代表を務めている。

タイムテーブル

13:00 開場

13:30 開始

(途中に休憩あり)

17:00 終了

17:10 ボランティア説明会

2019(平成31)年度 第11期ボランティア募集

京都自死・自殺相談センターで共に活動してくれるボランティアを募集しています。

Sottoは自死の苦悩を抱えたときの心の居場所をつくる団体です。自死念慮者への電話やメール相談窓口、大切な人を自死で亡くした方への語りあう会の開催、一人でも多くの方への自死に関する情報を届ける発信の活動を柱としています



当日は、来場の皆さまが対話へ参加できるように、随時、質問用紙を受け付け、会場のスクリーンにはツイッターをリアルタイムで表示します。そして、その内容を登壇者間の対話の中に取り込むことで、会場全体と一緒に考える機会にしたいと考えています。ツイッターのハッシュタグは「#Sotto_sympto」で、ツイートしていただくことで当日の対話に、今からご参加いただけます。

